

「学生の健康を考える会」 は何を考えているのか？ ～ヨコのつながりによるトータルな健康支援とは～

加藤恵津子（国際基督教大学 学生部長/人類学教授）

2021年12月10日

本日のトピック



1. ICUにおける「カウンセリング」の位置づけ
2. カウンセリングセンターの特徴
3. 「学生の健康を考える会」の特徴
4. コロナ禍で二者はそれぞれどのような役割を果たしているか
5. 結語：「学生の健康」とは何か&どのように支援すべきか

国際基督教大学 (ICU)

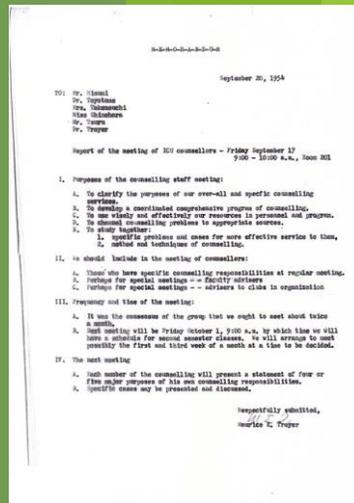
- ▶ 戦後生まれ、バタ臭い（1953年献学、アメリカに財団あり）
- ▶ キャンパス広いが小規模（学生約3,000人、専任教員約145人）
- ▶ 垣根がない（一学部、一学科、31メジャーが一つのキャンパスにおさまるリベラルアーツ・カレッジ）
- ▶ アドバイザー・アドバイザー制度（一人の教員に約30人の学生、春・秋・冬学期の初日＝授業登録日に必ず面談）



カウンセリングを重視、ただし 専門家に頼り切ることを良しとしない学風

- ▶ 1954 副学長主導のCounseling Staff Meeting ...毎週
「カウンセラー/センターを置くのではなく、全教職員による
カウンセリングの全学的ネットワークを」
”Community Hygiene”; 学生係、保健婦、校医、牧師、寮母...

- ▶ 1963 学生相談室 設置
- ▶ 1975 カウンセリングセンター に名称変更
- ▶ 1980 土井建郎（顧問医） 「学生の健康を考える会」 発足



カウンセリングセンターの特徴



- ▶ スタッフ： 専任大学カウンセラー2人、非常勤カウンセラー3名、
受付・事務2名、精神科顧問医1名（週半日勤務）
概ね一日 カウンセラー4名＋受付・事務1名体制、
- ▶ カウンセリング室4部屋、グループ室1部屋
- ▶ 日英バイリンガル対応
- ▶ 年間相談者数： 3536回(2018年度)、3437回(2019年度)
- ▶ 全学生における利用率：12.4%(2018年度)、11.3%(2019年度)
...全国平均（4.5%、2019年）の約3倍
- ▶ 2020年度はコロナの影響を受け、2764回、（利用率9.6%）
- ▶ 2021年度10月末は、コロナ前の2019年度同時期と比べて、2割増しの面接回数

コロナ禍における カウンセリングセンターの役割

- ▶ ともかくカウンセリングサービスを提供し続ける
 - オンラインのみから、オンライン・対面併用に
 - 顧問精神科医相談も、2021年4月から新規受付を再開
- ▶ コロナ禍でも出来ることを探す：
 - メールマガジンの発行、オンライングループの試み
- ▶ カウンセリングから得られた学生の声、知見を学生のプライバシーに配慮しつつ他部署とも共有する（⇒「学生の健康を考える会」など）
- ▶ 教職員のサポートを心掛けつつ、自分たちの正気を保つ

「学生の健康を考える会」の特徴



- ▶ 月1回、1時間会合（コロナ禍ではオンライン）
 - ▶ 議長：カウンセリングセンター長、学生部長（教員）
 - ▶ 約15部署の代表職員（ヘルスケアオフィス、特別学修支援室；教務G、学生サービス部〔寮、奨学金などの担当者〕、学修教育センター、国際交流室、交換留学提携先大学の日本人スタッフ；1年次教育〔語学、体育〕の主任；就職相談G、ジェンダー研究センター、図書館、宗務部...）
- & 役職者 = 教員（学部長、副学部長〔成績不良者担当〕...）
- ▶ 一人3～5分の報告（ユーモラスな吐露）
 - ▶ 小さな気づきから深刻な事例まで
 - ▶ 学生の匿名性を厳守
 - ▶ 解決よりも共有（ほぼ「言いつぱなし、聴きつぱなし」）

コロナ禍における 「学生の健康を考える会」の役割

- ▶ オンライン状況下で不足しがちな他部署との情報共有を補う
- ▶ イレギュラーな状況でこそ、横のつながりを維持する
- ▶ 各部署の苦労・工夫を共有
- ▶ ガス抜き

...学生の健康のため + 教職員の健康のため

部署間の連携で知ることができること (例)

▶ Simple factsから、コロナ禍の**功・罪**を推測

「今月の学内/寮内発熱・PCR受検・陽性者〇人」 (ヘルスケア〇)

「交換留学〇人渡航と〇人来日が中止となった」 (国際交流室)

「オンライン化により授業出席率が上がった」 (日本語教育)

▶ 学生の悩みを聞き取る部署の報告から、学生の心身状態を把握

「不安」 : 借入型奨学金 = 「借金」が怖い (親が反対) 、
大学生活がない、友達いない、情報がない、やる気が出ない
オンラインについていけない、就職・将来が見えない...

...「どこかの部署の仕事」ではなく、すべて貴重なデータ

参考：ある学生のケース (もとからある複合的困難、コロナ禍が助長)

家計困難 (親の収入激減、アルバイト激減)

行政につながらない (長蛇の列、電話は話し中)

親による虐待 (学業への反対、
または休学を許さない)



親の病気 (介護・介助)

本人の身体的病気 (入院)

本人の精神的病気 (通院)

成績不良 (欠席超過、課題不提出)

結語：学生の健康とは何か &どのように支援すべきか



- ▶ 健康とはトータルなもの
- ▶ 「経済的困難、家庭の事情、成績不良、将来への不安、身体の健康、心の健康は全てつながっている」⇒**コロナ禍で、より鮮明に**
- ▶ 「不安」な学生への支援はカウンセラーや医師だけの仕事ではない
... 不安 = 「心の病」とみなす (pathologizing) ことのリスク
- ▶ 「〇〇に相談するといいよ」だけでは相談しない学生もいる。各部署や教員からのアウトリーチをたえず仕掛ける
- ▶ 実質的な支援（助成金、成績や家庭の事情への教員の理解、etc.）は、医療専門家と同じように学生を救う

⇒**ふだんからの学内連携が、非常時の学生の健康支援に生きる**

ご清聴ありがとうございました

&

Happy Holidays (soon) !

